

『青少年海外研修出発式』

今年で4回目となる『大崎町青少年海外研修派遣事業』の出発式が、7月20日（水）に役場応接室で行われました。

この事業は、町内に住む高校生を対象に募集し、国際性豊かな青少年を育成することを目的に実施されています。研修先は、アメリカ・ワシントン州シアトル市で、約1か月間ホームステイしながら、現地の学校に通います。2人の高校生からは、「将来の夢に役立てるため、たくさんのことを学びたい。」と話してくれました。

写真右側 松永万耶さん（串良商業高校・総合ビジネス科・2年）

写真左側 弓削友希菜さん（鹿屋女子高校・情報処理科・1年）



『カブト虫像もピッカピカ!』

7月24日（日）、道の駅『くにの松原おおさき』前に設置されているカブト虫像の清掃、その名も『水（みっ）じゃび』が行われました。

これを毎年行っているのは、まちづくりグループのおおさきルネサンス（代表 小屋健二さん）で、カブト虫像本体の研磨や草払いをしました。

1年分の汚れを洗い流してもらいピッカピカになったカブト虫像は、とても気持ちよさそう?!でした。

『カブト虫相撲大会』

ミニ独立国ハナダ・ラーケ共和国（社会福祉法人愛生会）が毎年開催している『第17回カブト虫相撲大会鹿児島場所』が、7月24日（日）に大崎町総合体育館で行われ、約1,500人の親子連れが参加し、持ち寄った自慢のカブト虫で勝負しました。

競技種目は、相撲・競歩・力くらべ・綱わたりがあり、土俵わりにはたくさんの人だかりができ、子ども達だけでなく、大人も一緒に声援を送り、会場内は大変な熱気に包まれています。

愛生会の吉原信一さんは「親子のふれあいの場として、みなさんからはたいへん喜ばれています。遠方からの参加もあり、毎年たくさんの人でにぎわっています。来年も開催しますのでぜひ、お越しください。」と話されました。

2回目の参加という櫻井克樹くん（大崎小学校1年生）は「カブト虫はきのうの夜つかまえてきました。勝つ自信はあったけど、負けてしまいました。来年は勝ちたいです。」とくやしそうに話してくれました。



▲相撲…直径20cmの土俵で一本勝負 トーナメント方式



▲競歩…50cmの距離を何秒で走れるかを競います



▲力くらべ…ひよこを乗せた車で30cmの距離を何秒で引けるかを競います



▲綱わたり…50cmの綱をどれだけ早く渡れるかを勝負